

埼玉大学へ通う深田浩美は、少し緊張した面持ちで受話器を上げ、就職志望先の会社へ電話を入れた。

「はい、白河商事です」

「私、埼玉大学の経済学部在籍している深田浩美と申します。恐れ入りますが、人事担当の鈴木さんをお願いいたします」

「鈴木はただ今席をはずしておりますが」

「そうですか。何時頃お戻りになりますか？」

「三時には戻る予定になっております」

「それでは、三時頃に改めてお電話いたします。お忙しいところ失礼いたしました」
三時になると、深田は再び白河商事に電話を入れた。

「はい、白河商事です」

「私、本日午前中にお電話をいたしました、埼玉大学の深田浩美と申します。人事担当の鈴木さんはお戻りでしょうか？」

「はい、少々お待ちください」

暫くすると、人事担当者の低い声が受話器から聞こえてきた。

「お待たせしました。鈴木です」

「あの・・私、埼玉大学の経済学部在籍している深田浩美と申します。今、お時間は大丈夫でしょうか？」

「はい、構いませんよ」

「私、八月三十一日に行われました会社説明会に参加いたしましたして、御社への就職を希望しております。面接試験はまだ受け付けていらつしやいますか？」

「はい、まだ受け付けています。面接試験は来月の八日、九日、十日の三日間行いますが、八日は既に定員になっていきますので、あとは九日と十日になります」

「では、九日に面接をお願いしたいのですが」

「わかりました。では九日に面接の予定を入れておきます。それでは、あなたの大
学名、学部名、お名前をもう一度お願いします」

「はい、埼玉大学経済学部の深田浩美と申します」

「埼玉大学経済学部の深田浩美さんですね。面接は会社説明会の時と同じ、渋谷の
本社になります。当日は午前十一時までに三階奥の会議室の方に来てください。そ
れから、面接試験を始める前に、一般常識と作文の筆記試験を行う予定になってい
ます」

「わかりました。それでは、来月九日の午前十一時までに、渋谷本社の三階会議室
の方に参りますので、よろしく願います。失礼します」

受話器を置くと、富山は電話口のメモ帳に急いで記入した面接の日時と場所を、
もう一度よく確認し、就職活動記録ノートに書き写した。